［概要］

発達障害児を持つことで悩みや問題を抱える親において親の会の存在がある．親の会は共通した悩みを抱える当事者が集まり組織・運営している会としてセルフヘルプグループの 1 つとされているが，先行研究ではその機能は見られないとしているものが多い．岡（1999）によるとセルフヘルプグループはなりたちのうえで機能が働いているとされ，なりたちを無視して機能ばかりに注目すべきではない．そこで本研究では，発達障害児をもつ親の会をセルフヘルプグループとしてなりたちの面から見ることで，なぜ発達障害児をもつ親の会はセルフヘルプグループとして機能しないのかを考察することを目的とし，会員 4 人に聞取り調査を行った．その結果，放課後等デイサービスの普及や情報社会による情報入手のしやすさによって会員間での親の会に対するニーズの違いや発達障害児を育てる親としての当事者性の違いが明らかになった．そのため，発達障害児をもつ親の会はセルフヘルプグループのなりたちの条件には当てはまらずセルフヘルプグループとして機能しにくいことが考えられる．発達障害児を持つ親の会がセルフヘルプグループとして機能していくためには参加者が自発的に集まり，当事者性の高い親が運営を行っていく必要があると考えるが，現在の状況からみると困難だと言える．

キーワード：発達障害児，親の会，セルフヘルプグループ，なりたち